

▶会社の概要や特徴

弊社は「社会インフラ専門」会社として三十数年歩んでまいりました。

設立当時から「斬新な技術開発」を積極的に行い、当時日本で最初という「CADによる自動積算ソフト」を開発し、熟練した社員しかできない積算を自動化することにチャレンジしました。旧態依然の設計や積算を「CAD」を使用し、パソコンに教え込む投資を積極的に続けた結果、二十数年の投資がここ十年位に実を結び始めました。

▶取り組んだ理由きっかけ

元々社員の大半がメーカーからの転職者が多く「完全週休2日制」に抵抗感が無く業務を遂行していました。

私自身24時間働くという考えで、会社を経営しておりましたが、働けば働くほど利益が減りました。

何故かという、労働時間が長くなると経費が嵩み効果が余りないことに気が付きました。

そこで、思い切って「完全週休2日制」を徹底いたしましたところ利益が増加し、社員は休養充分で休み明けに働く態勢が出来ました。

▶実現による効果など

雇用に関しては基本的に「完全週休2日制」は有利であり、特に若年層はその傾向が強いと思われます。

【実現効果】

- 収入の増収(月給が変わらなくて休日が増える)を理解して頂く。
- 休祭日の増加(積極的に連休が取れるような勤務日の変更する体制)
- 事務所維持費の削減(光熱費・交通費・事務所経費)
- 週5日労働での事務・現場管理の合理化(OA機器・技術ソフトの導入)
- 高利益・短納期事業に傾斜(専門的技術を磨くための教育的投資)

【実現条件】

働く立場として、週6日で働く作業を5日にするにはどうしたら出来るかよりも社員が「土日または祭日」を休むためにどうしたら5日間で出来るかを考えてもらう。

▶4週8休実現へのプロセス

1996年からの日報記録がサーバーに記録されていますが、当初は残業代が大幅に増えた事がありましたが社員が「完全週休2日制」に慣れてくると週5日で仕事を終わらせ、週末を「楽しむ」事に行動し始めたものと考えられます。

特に経営者が積極的に決定し、実施すれば社員は基本的に大賛成です。で経営的な面の検討のみだと思います。

▶実現に向けた様々な課題とその克服方法

工期設定については弊社事業内容が「官公庁」様の受注が「98%」であり、現状は何ら問題がありませんでした。

また、全社員正社員という事で給与面への影響もございませんでした。協力会社様においても、ご理解いただいているものと考えております。

また、出勤日数と残業減少で交通費及び光熱費等が削減されました。

工期設定は週5日にて当然組みますが、弊社の場合は「完全週休2日制」のため、祭日が多く、また、近年計画的有給取得(年5日間)もあり年間労働日数の減少が一番の問題となりました。

社員と協議を重ね「完全週休2日制」を維持するために年末年始・夏季休暇等を調整し、乗り越えました。

民間のお客様は休日作業が多くありますが、代休を完全実施し、賃金抑制を行いました。

▶独自の取組や工夫されてる点

ともかく、社内の「有効なOA化」を強力に進める事です。

お客様に提出する書類等は事前に書式化を出来るが限り進め、社員の作成時間の短縮を図りました。

さらに、技術的な資料もサーバー内に「計算集」・「例題集」等々過去の資料を整理整頓し、保存しておくことが社内事務合理化となりました。

工事台帳等の独自の電子化(社内製作)で入力時間削減、設計図面のサンプル化で設計時間の短縮を実施しました。